

第3回「地域のニーズに応じたバス・タクシーに係るバリアフリー車両の開発」 検討会議事概要

1. 日時

平成22年3月10日（水）15:00～17:00

2. 場所

中央合同庁舎7号館11階共用会議室

3. 出席者

鎌田実（委員長）、藤井直人、大野寛之、今福義明、根本克己、川村泰利、水田誠、岡野俊豪、本多通弘、泰松潤（代理 児玉）、中川 茂、仲條直樹、山下和彦、三崎匡美、福元聡、丹山 裕和、吉川博之、山崎篤男（代理 大森）、石崎仁志、清谷伸吾（代理 甲斐）、村田茂樹
事務局：藤井 健、横谷靖、荒井紀博、吉田節子（以上日本自動車研究所）、
高井誠治（国土交通省）

敬称略順不同

4. 議事概要

鎌田委員長の挨拶の後、以下の項目について報告及び議論がなされた。

（1）バス作業部会における検討の報告（資料2 報告書案2.）

事務局より、今年度のバス作業部会での検討について報告があり、報告書案について原則として承認された。なお、委員より主に以下の発言があった。

- ・ 反転式スロープ板の採用に加え、携帯スロープ板の搭載も検討すべきである。
- ・ 車いす横向き固定は、安全性や動線の観点等から採用されるべきでない。
- ・ 走行不可能路線調査結果について、ワンステップバスでも対応できない箇所もあるように見受けられ、来年度にケーススタディすべきである。
- ・ 高速リムジンバスについて、フロントオーバーハングを延ばす対応は、走破性の観点から実現性が乏しい。

（2）タクシー作業部会における検討状況の報告（資料2 報告書案3. 及び4.）

事務局より、今年度のタクシー作業部会での検討について報告があり、報告書案について原則として承認された。なお、委員より主に以下の発言があった。

- ・ 乗合タクシーでの横向き座席のシートベルト設定については、衝突時の安全上の背反についても検討していく必要がある。
- ・ 車いす後乗りユニバーサルデザインタクシーの乗降口について、バックドアとサイドドアの寸法について分けて検討すべきである。
- ・ 車いす使用者の乗車場所は坂道から平地に移動してもらう等臨機応変に対応することもあり、乗降性評価にあたっては実態も考慮すべきである。
- ・ ユニバーサルデザインタクシーについては流しとして運用することを前提とし、車両構造や燃料等の仕様に係る検討もすべきである。

(3) 東京モーターショーの展示及び調査の報告（資料2 報告書案5.）

事務局より、東京モーターショーにおける展示内容およびアンケート調査について報告があり、報告書案について、車いす全長に係るデータを事務局で見直すこととされ、原則として承認された。

(4) 平成22年度取り組むべき課題の説明（資料3）

村田室長より来年度取り組むべき課題について説明があった。

(5) 総括

鎌田委員長より総括がなされ、村田室長より本事業への協力に対する御礼の言葉があった。

5. 今後

報告書案に対する意見は3月第3週前半までに事務局に提出することとし、最終的な報告書とりまとめは主査及び事務局に一任された。

以上